

第2回 老人福祉センター横浜市晴嵐かなざわ指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和8年8月19日（月）14時00分～15時55分
開 催 場 所	金沢区役所6階2号会議室
出 席 者	柴田委員、高林委員、宅井委員、寺木委員、森委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴人：1人）※一部非公開
議 題	1 応募団体の面接審査 2 指定候補者の選定審議
決 定 事 項	1 委員会の公開・非公開、面接審査の進め方、採点方法については、第1回指定管理者選定委員会で審議・決定した内容のとおりとすることを確認した。 2 エフィラグループ株式会社を指定候補者と決定した。 3 報告書の作成、議事録の確認は委員長に一任する。
議 事	1 応募団体の面接審査 （委 員）令和6年から7年の決算について、返済計画はどうなってるのか。会社としては利益が出ているが、借入が多すぎないか。 （応募者）3社を子会社化したことによる影響。長期的に見れば利益が出ているので問題ない。 （委 員）町内や近隣防災拠点での活動等に、会社としてすでに参加しているのか。 （応募者）全部の拠点ではないが参加している。 （委 員）老人福祉センターは福祉避難所だがどうするのか。 （応募者）主導すべき立場なので、むしろ積極的に避難所を開設する立場になると考えている。 （委 員）地域ケアプラザとの兼ね合いについてどう考えているか。 （応募者）複合施設になっていることが晴嵐かなざわの特徴。地域ケアプラザと重複するような事業提案もあるが、対象が若干異なると考えている。 （委 員）顔の見える関係をつくるのはグループとしての方針か。 （応募者）そのとおり。 （委 員）現指定管理者は貸室をメインにしている。また、現指定管理者は利用者の意見を積極的に取り入れている。 （応募者）地域のイベントや現従業員の雇用の面なども含め、丁寧に引き継いでいく。良い物は残し、変えるべき点は培ってきたノウハウを生かしていく。 （委 員）会社として効率的な運営をしている印象だが、提案にあった高齢者向け弁当に会社のチラシを添付することは利用者の囲い込みになるのではないか。公的な施設としていかなものか。 （応募者）誰一人取り残さない、孤立させないことが会社としての理念。囲い込みという視点は勉強になった。自社のサービスの押し付けにならないように留意する。 （委 員）民生委員とのつながりをどう考えているか。 （応募者）連絡会等に参加させていただき、地域課題を共有する。

	(委 員) 現在、8050 問題 高齢化・貧困・障害等複合的な問題が詰まっている。具体的にどのように取り組まれる想定か。 (応募者) どちらかと言えば地域ケアプラザの領域だと考えているが、地域ケアプラザのみならず、社会福祉・居宅介護に関わる会社として1 番の問題と思っている。地域に出ていくきっかけづくりが老人福祉センター。施設単独で取り組むものではなく、地域ケアプラザ・区役所や複数の部署で対応していくべきものと思っている。 また、生涯福祉分野も会社としてあり、ノウハウは現場で蓄積されている (委 員) 利用者ニーズをどう把握するか。相談内容をどう行政と共有するのか (応募者) 既存の事業を引き継ぎ、またそこに自社のエッセンスを足していきたいと思う。また、利用者の声についてはアンケートや効果測定を行っていきたい。 利用者からの相談内容については、まずは自社のグループ内に看護師や精神福祉士もいるので、専門分野の見解を持って、どこの行政部署につなぐのは判断したい。 2 指定候補者の選定審議 ・提案であった「生ききる」を全うしてほしい。 ・負債が大きいのは気になるが、売り上げは伸びているので大きな問題ではない。 ・現指定管理者の理念は引継ぎ、利用者の意見は反映してほしい。 ・今までの利用者やスタッフが引き続き気持ちよく利用できるようにしてほしい。 ・会社として積極的に雇用を新採用しているが、若い人が職業としてこの会社を選択しているのは団体としての長所 ・新規事業者は最初はどうしても不安になるが、地域に根差した運営を行ってほしい。
資料・特記事項	1 配付資料 財務の健全性について 2 特記事項 なし